あおもり民医連

2018年5月15日発行
【8面オールカラー】発行部数2,710部
第275号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017(723)4076 FAX. 017(773)5326
URL http://aomin.jp/ e-mail info@aomin.jp

青森県民医連Facebookページ開設しました。
https://www.facebook.com/aomin00/
いいね！ よろしくお願いします。

二〇一七年度 青森県民医連 学術運動交流集会

民医連の新しい二つの柱を軸に、地域の健康を守り抜こう

3月18日（日）社会教育センターにて「2017年度　青森県民医連学術運動交流集会」が行われました（参加者総数230名）。分散会では口演38題・ポスター 23題の合計61演題が発表され、記念講演は津軽保健生活協同組合理事長　安田肇氏より今回の学運交のテーマでもある、「民医連の新しい2つの柱」の1つ「安全、倫理、共同のいとなみを軸にした総合的な医療・介護の質の向上」について講演が行われました。

記念講演を行う安田肇津軽保健生活協同組合理事長

伊藤真弘青森県民医連会長による開会の挨拶を皮切りに、午前中は口演三十八題・ポスター二十三題で合計六十一演題が各分散会会場にて発表されました。多職種による演題発表は、それぞれの特色を活かした患者・利用者への関わり、病気そのものだけにとらわれず、社会背景や健康阻害要因を念頭においた民医連の医療活動の発表が多く聞かれました。

津軽保健生活協同組合理事長の安田先生の記念講演では、医療倫理をめぐる最近の動向について述べられ、胃瘻増設に関わる個々の人生のあり方や身寄りのない方の対応、病院における倫理委員会検討、医療倫理四分割を利用しての判断など、一人の人間を大切にした考え方、またその人の人生観、死生観について学び、医療従事者として考えさせられました。答えはないが、多職種で協同し導き出した答えが重要であるということが参加者に伝わったと思います。

今回の学運交では各分散会の座長が選出する「座長賞」が設けられ、「看多機をもっと広めま賞」や「行政を動かしたで賞」など自身の発表だけでなく、分散会毎のユニークな名前で表彰されました。

学運交実行委員会として、今回の学運交は発表者・座長・一般参加・実行委員の全ての方が主役の学運交にしようという思いで取り組みました。日々の医療・介護をはじめ、様々な分野からの演題発表を聞いて議論を交わし、午後の記念講演では全体の内容を補う形で、参加者はそれぞれの意識を高めることができたのではないでしょうか。

青森県民医連の学運交は、二年に一度開催される全日本民医連学運交の開催年度に開催されます。次回は二〇二〇年度の開催予定です。日々移り変わる厳しい情勢の中でも、変わらない民医連の医療をこれからも続けていきましょう。

（学運交実行委員・青森県民医連事務局／最上正一）

分散会

青森民医連学術運動交流集会ポスター・口演発表

多職種による、それぞれの特色を活かした医療活動報告

第五・第六分散会ではポスターセッションで発表が行われました。私は法人事務委員会初の企画である事務交流集会で、民医連綱領を学習し、求められる民医連の事務像について意見交流をしたことを発表しました。少人数の事業所が多い薬局では、薬局間で業務以外の意見交流することは少なく、とても良い機会となりました。また、職種や経験年数は違えども、患者さん第一の無差別・平等の医療の実現を目指していることが職員間で確認できたことは、今後の民医連活動への力となりました。

全日本でも発表したテーマでしたが、聴く方が同じ県連の職員だとまた違った雰囲気で、全日本よりは固くならず発表できたと思います…とはいえ緊張しました。

会場ではポスター掲示のみを含む二十五演題が報告され、参加者は発表を聞くほか、掲示されたポスターを閲覧することができました。次にポスター発表の機会があれば、今回の学運交で見聞きできた他の発表者の方を参考に、より良い発表をしたいと思います。

（あおもり健康企画・本部／玉熊律郎）

ポスター掲示のみを含むと25演題が報告されました

口演分散会

ポスター発表分散会

表彰式

相馬裕実行委員長より各座長賞を贈呈されました

県連学術交流集会実行委員のみなさん

学術運動交流集会に参加した皆さん感想を一部ご紹介します

●私は、成年後見人は万能かと思っていたが、意外にも医療的判断には限界がある、それより医療従事者の本人利益を尊重しチームカンファレンスが法的にも有効であるという話は現段階として確信を得られた。

●胃ろうに関するお話は、薬局ではなかなか出ない話題なので面白いと思った。生きるためにやらざるを得ないものだと思っていたが、人によっては望まないものもあるのだと知って驚いた。

●各病院や薬局、施設の事例を聞くことができて良かった。食事に関する内容で、食べて死にたいという演題が興味深かった。

2018年
3月20日

医療サーベイ開催

～グループに分かれて健生病院の評価調査～

第43期第1回全日本民医連北海道・東北地協医療安全推進委員会サーベイが新健生病院で行われました。安全・感染・薬剤・医療機器の４グループに分かれ健生病院の「いいとこさがし」をしました。

医療機器グループは、医療機器の管理で医療機器の貸し出しの際のバーコードを利用してのチェック機能、貸出物品の把握やどこで借りて行ったのか、何台利用しているのか把握できるシステムがとても良いと印象に残りました。

（青森民医連青森事務所／最上正一）

……

薬剤グループは、病棟や薬局での薬剤の管理についてサーベイに入りました。「医薬品業務手順チェック表」を運用し、手順書の見直しの年間計画がきっちりとたてられており、漏れなく点検できるよう、創意工夫がなされていていることに感銘しました。

（あおもり協立病院・医療安全管理室／須藤千夏）

……

感染対策関連グループは、環境ラウンドを中心としてラウンドしました。ミキシング周辺や外来周りの動線など整備されており、特に外来周りでは患者と職員が交差しない構造で感染経路の遮断がされていました。病棟のステーションの入口に手洗い場があることも良かったです。経路別予防策において、隔離予防策をとっている病室での個人防護具着用の掲示など参考になる部分が多くありました。

（あおもり協立病院・感染管理者／菊池久美子）

薬剤分類がすぐ分かるように表示をつける工夫がされていました

二〇一七年度 法人介護ウェーブ

～各法人で介護ウェーブを実施!!～

二〇一七年度法人介護ウェーブは、十一月十一日（土）悪天候により中止されました。民医連事業所内では介護福祉士委員会を中心に高齢福祉委員会、看護委員会と協力し各法人で介護ウェーブを行いました。

八戸

二月十四日バレンタイン行動と一緒に、コープ南類家店にて行いました。

二十三名の職員が参加し、「国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願署名」五十三筆と「介護保険制度の改善、介護報酬の引き上げ、介護従事者の処遇改善と確保を求める請願署名」が五十七筆集まりました。

青森

三月十九日十一時から協立クリニックにて行いました。二十一名の職員が参加し、「国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願署名」二十七筆と「介護保険制度の改善、介護報酬の引き上げ、介護従事者の処遇改善と確保を求める請願署名」が二十九筆集まりました。最後にみんな笑顔で記念撮影を行いました。

弘前

津軽保健生協で毎月行っている、組合員さんとの行動「ニコニコデイ」と一緒に、三月二十六日十時から健生病院で行いました。職員は六名参加し、一人で署名二十筆患者さんに声掛けし活動した職員がいました。

（青森民医連青森事務所／最上正一）

青森県社保協大学習会

「その差押え、違法です！」

～違法な滞納処分・滞納者保護制度を学ぼう～

二〇一八年四月七日（土）、市町村議員を含む百三名が参加し大阪の京橋共同法律事務所の楠晋一弁護士を迎え「その差押え、違法です！」と題し学習会を開催しました。

講師　楠晋一弁護士

県社保協は毎年自治体キャラバンにおいて、国保に関する要求・調査等を行い懇談しています。近年、県内の平成二十八年度の滞納による差押え実施件数が五千七件と急増している現状を踏まえ今回の学習会の開催となりました。

講演は、差押えの実態と裁判実例や対策法などを学びました。基本的には差し押さえ滞納処分は国税徴収法や地方税法にもとづいて差し押さえすることができますが、実施には厳格なルール（差し押え禁止財産等）が定められており、違法な差し押さえができないことになっているとのことでした。しかしながら近年、違法な差し押さえが急増している実態が紹介され、多くの参加者から怒りの声が上がっていました。

学習会を通じて私達が法令を学び自治体に法令を守らせ、より良い運用させると同時に、県内の多くの自治体に拡散して行くことが求められていると感じました。これは青森社保協がこれまでの運動の中で基本としてきた事であり、滞納問題でも同様です。

今後ますます差し押さえが増えていく可能性が高い状況で、住民の権利を守り、個々の事情を正確に把握した上で今後の活動に生かしていきたいと思う、実りある学習会となりました。（青森民医連青森事務所・次長／木村儀弘）

熱心に講師の話を聞く参加者のみなさん

2018年　みんなで楽しみながら原発・核燃に反対行動！！

さようなら原発・核燃「3・11」青森集会

3月11日（日）青森市青森市民ホールで開催された「2018年さようなら原発・核燃『3・11』青森集会」に参加しました。ファルマからは22名の参加でした。

まず集会では、開会の挨拶後に猿田佐世弁護士を講師に「日米原子力協定と核燃サイクルの行方」の講演が行われました。その後福島、大間、六ヶ所からの報告がありました。特に福島からの報告は震災後7年経っても被災者の方が辛い状況にいることがわかり、胸が苦しくなりました。

集会後は青森駅前からパレードをしました。今回のファルマのグッズは、終業後に多くの方が制作した「金魚ねぷた」とリンゴのパネルです。特に金魚ねぷたは今回立体のグッズ作製にチャレンジしました。その甲斐もあり、金魚ねぷたを一緒に背負いたいという参加者の方がいたり、職員自身も楽しく沿道の方やドライバーにアピールできたりしました。ファルマレンジャーも子どもから大人まで大人気で、気軽に話しかけてくれる方もいました。これからも楽しくやりながら、ファルマの原発・核燃反対の強い思いを様々な場面でアピールして、地域の方などを巻き込んでいきたいと思います。（株式会社ファルマ・本部主任／阿部千佳子）

みんなで作ったカラフルな金魚ねぷたでPR！

春の高校生一日看護体験

看護師としての役割を楽しく体験！

三月二十九日に藤代健生病院で十九名、三十日に健生病院で三十四名の学生が参加しました。

高校生一日春の看護体験を行いました。津軽地域では、健生病院と藤代健生病院の高校生一日看護体験の企画が各高校の進路指導の先生方や学生たちにもとても人気で、中弘南黒、西北地域の高校から希望者がたくさん集まります。

学生のみなさんは白衣に着替えて、午前中は体験講座として、シーネ包帯法、手洗い体験、とろみ食体験、注射器や点滴に触れる体験、バイタルチェック体験など技術体験し、午後は、病院内の見学の他、病棟にいる患者さんや赤ちゃんと触れ合いました。

最後に、看対担当から「看護師への道」や「県連奨学金制度」についてパンフレットをもとに説明をしました。体験を終えた学生の感想は、「看護師の道へ進みたい」や「家に帰ってから親にもパンフレットを見せて将来について話し合いたい」などがありました。

今年度採用者の中にも高校生一日看護体験のつながりで入職した方もたくさんいます。将来の職業を考える一日になれるよう高校生一日看護体験を続けていき、一人でも多くの学生が看護師の道に進んでいってほしいと願います。（津軽保健看護介護部・看護学生担当／津川智子）

藤代健生病院の先輩の話を熱心に聞いていました

緊張しながらも注射器に触れる体験中の学生たち

2018年度 入職おめでとう!!

青森保健生活協同組合 28名

- 医　　師　1名
- 看　護　師　11名
- 介護福祉士　1名
- 放射線技師　1名
- 理学療法士　3名
- 作業療法士　1名
- 事　務　員　7名
- 社会福祉士　1名
- 管理栄養士　1名
- 臨床検査技師　1名

津軽保健生活協同組合 63名

- 医　　師　2名
- 看　護　師　29名
- 准看護師　3名
- 薬　剤　師　3名
- 理学療法士　4名
- 作業療法士　9名
- 言語聴覚士　2名
- 歯科衛生士　1名
- 臨床心理士　1名
- ソーシャルワーカー　1名
- 臨床工学技士　1名
- 臨床検査技師　1名
- 事　務　員　6名

八戸医療生活協同組合 17名

- 理学療法士　1名
- 作業療法士　1名
- 柔道整復師　1名
- 看　護　師　2名
- 介護福祉士　4名
- ヘルパー　4名
- 介護助手　2名
- 事　　務　2名

株式会社 ファルマ 6名

- 薬　剤　師　4名
- 事　　務　2名

一般社団法人 あおもり健康企画 2名

- 薬　剤　師　2名

社会福祉法人 虹 8名

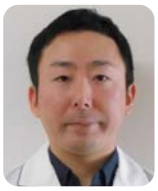
- 介護福祉士　4名
- 事　　務　3名
- 介護支援専門員　1名

社会福祉法人 花 2名

- 指　導　員　1名
- 生活支援員　1名

2018年度 新入職医師紹介

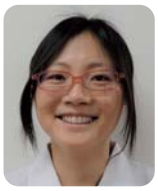
新入職医師紹介



小山智教（おやまちきょう）
出身地：青森

精神科医になり十年目。今春より生協さくら病院で勤務しております。不登校や発達障害といった児童青年期の問題から高齢者の物忘れに関する問題まで、メンタルヘルスに関することなど、地域のみなさんと一緒に対策を練ることができれば幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

研修医

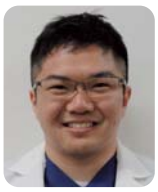


渋谷絵里（しぶやえり）
出身地：東京

はじめまして、今春弘前大学を卒業し、健生病院で初期研修をさせていただくことになりました。出身は東京都ですが、青森の雄大な自然と生き方にひかれ、この地で研修させていただくことを決めました。確かに冬は災害のような厳しさですが、春の桜は言葉にならないほど美しく、季節の美味しい食べ物は尽きることがなく、冬の寒さにも負けない暖かい心をもったひとたちの中で働けることを大変光栄に思います。

世間知らず、経験不足の身でありますが、この地域のみなさまの健康の一助となれるよう頑張りたいと思っています。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

研修医



大塩健文（おおしおたけふみ）
出身地：東京

はじめまして。今年度より健生病院初期研修医としてお世話になります、大塩健文と申します。弘前大学卒業ですが、出身は東京で津軽弁に関しては不慣れな面もありますが、そちらに関しても医学の勉強と並行して頑張って行きたいと思います。精神科を専攻したいと思っておりますので、心と身体の両方を見ることが出来る、幅広い知識を備えた医師になれるよう精進して参ります。皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

会場全体が熱を帯びた活気ある総括・方針会議

青森保健生協 あおもり協立病院・クリニック大会開催

4月20日（金）法人の理事・監事、社会福祉法人虹、あおもり健康企画からの参加を含め150名規模で開催されました。

大会討議の第一部では、昨年度の医療活動総括と今年度の医療活動方針の議論を主軸に進められ、第二部では、民医連職員・保健生協職員としての取り組み（組織活動、3000万筆署名活動、接遇向上）を主軸に進められました。職員のみならず、法人理事や社会福祉法人 虹の山崎事務局長、あおもり健康企画の斎藤薬局長からも積極的な発言をいただきました。

協立病院、協立クリニックが青森保健生協組合員に責任をもつ事業所として経営を守り抜き、民医連綱領、法人・当院の理念に基づいて今年度の診療報酬・介護報酬改定に全職員の力で対応し、困難を打開して事業と運動を守り発展させていくための構えを作ることができた大会となりました。

（あおもり協立病院・事務長／今　淳一）

理事長を講師に 憲法学習会開催!!

八戸医療生協 全職員大会開催

八戸医療生協では4月22日（日）職員86名が参加して全職員大会を開催しました。

はじめに荒岡英孔専務理事からの二〇一七年度のまとめと二〇一八年度の方針などの説明があり、その後全日本民医連総会報告や内田弘志理事長が講師の憲法学習会などを行いました。

また、前年度入職した新入職員十七名（介護職十名、セラピスト三名、看護師二名、事務二名）の内、十四名が参加して紹介されました。代表して西田智子さん（介護福祉士）から挨拶があり、記念写真の撮影となりました。八戸医療生協では新卒採用は中々難しく中途採用が多いため、四月の入職式などは行っていません。毎年この四月の入職式などは行っていません。毎年この職員大会で一年分の新入職員の紹介を行っています。

数年前より職員数も増えてきており、職員同士の顔合わせの機会も少なくなっています。この職員大会は年に一度、八戸医療生協の活動について理解を深め学習する機会と、職員の交流の場として定着してきています。（八戸医療生協・本部／下館大史）

県連事務局人事往来

3年間、教育・青年活動に関わり、たくさんの方々に支えていただきました。本当にありがとうございました。今後も民医連の視点を忘れずに、日々業務に励んでいきます。

帰任 関（せき） 和恵（かずえ）

（青森民医連青森事務所⇒生協さくら病院・医事課）

4年の間に、青森・弘前・研修医室と経験させてもらいました。それぞれの場所で各職場の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。これからは現場から県連を支えていけるように頑張ります。

帰任 小笠原（おがさわら） 将太（しょうた）

（青森民医連弘前事務所
⇒あおもり協立病院・診療サービス課）

4月まで青森保健生協組織部に勤務しておりました。業務内容が初めてのことばかりで、青森事務所の皆様に指導していただき、日々奮闘しております。前任の山崎さんのようにきめ細やかな対応をすぐに出来ませんが、少しずつでも近づけるように努めて参ります。

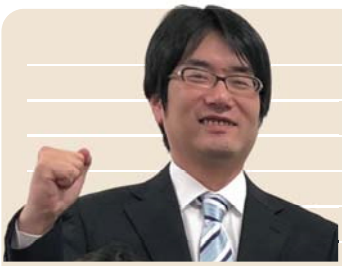
着任 山口（やまぐち） 理香子（りかこ）

（青森民医連青森事務所（薬剤師薬学生担当））

3期6年間、青森民医連青森事務所では主に薬剤師部門・薬学生対策の他、機関紙などを担当してきました。この間、奨学生も増え、地協や全日本にも足を延ばして走り回ってきましたが、薬学生奨学生たちが自分の子どもと同世代になり、私の頭もだいぶ白髪交じりになってきましたので後任にバトンタッチ！

帰任 山崎（やまざき） 潤平（じゅんぺい）

（青森民医連青森事務所（薬剤師薬学生担当）
⇒青森県医療事業協同組合）



この春から研修医室に配属になりました。慣れない事ばかりで毎日勉強の連続です。周りの皆様の手厚いサポートに助けられてばかりですが、少しでも追い付いていけるよう努力して参りますので皆様よろしくお願いいたします。

着任 荒木関（あらきせき） 匡孝（まさたか）

（青森民医連弘前事務所（医局医学生課））

退職者慰労会

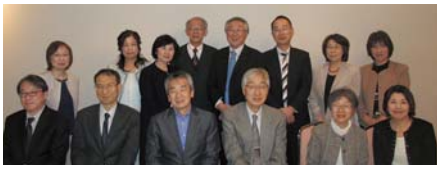
青森／津軽

津軽保健生活協同組合

二〇一七年度 退職者慰労会

二〇一七年度の津軽保健生協定年退職者は十三名でした。

三月九日に法人主催の「二〇一七年度定年退職者慰労会」が弘前市内のホテルで開催され、七名が参加しました。慰労会では、感謝状・記念品の授与を行なった後に一人ずつから退職にあたっての思い出が語られ、参加者全員で退職の労をねぎらい合いました。（津軽保健生活協同組合総務部・次長／古村律子）



青森保健生活協同組合 一般社団法人あおもり健康企画 社会福祉法人・虹

三法人合同 定年退職者慰労会

二〇一八年三月九日（金）、青森市東大野にあるフレアージュスウィートにて、二〇一七年度に定年退職を迎えられる八名の皆様と職場の仲間が集い、これまでの御苦労や思い出を語らう慰労会を開催することが出来ました。（あおもり協立病院・地域医療連携室／中澤淳也）

あおもり民医連 275号 発行日 2018.5.15 発行部数 2,710枚 AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.45

♥ name だいちくん

♥ age 6歳

この春で新一年生になった我が家の息子！妊娠当初は双子で楽しさ二倍と喜んでたが、二人分の命を持って元気に一人で産まれてきた事を今でも感謝しています✧

産まれるまでの不安は嘘のように元気に病気もせず名前のように大きく育ってます！優しくいい男になってね✧

（あおもり協立病院　5階病棟／石澤朋子）

私の三つ星★★★

オススメ　～落語～「芝浜」（5代目三遊亭圓楽）

日本テレビ系列の番組「笑点」はとても面白くて毎週見ている。どの噺家も個性があって面白いが、落語の語り方やその中に潜む知性という点で、私は5代目三遊亭圓楽が好きだ。

有名な落語に「芝浜」がある。酒におぼれて仕事をしない亭主が、芝の浜で大金入りの財布を拾った。そのままだと拾った金で仕事もせずに酒ざんまいとなり、金を使い尽くすので、妻は財布を隠し、「拾ったというのは夢だ」と夫に言う。夫も夢だったと思い、まじめに働くようになり、魚屋の店をもつまでになった。ある大晦日の夜に妻は、隠してあった財布を出す。そこで有名なやりとりが展開されるというもの。圓楽さんは夫役も妻役もさすが。特に妻役には圓楽さんならではの色気が感じられる。もちろん他の噺家でもその人固有の雰囲気をもっている。それを楽しむのも落語の冥利だと思う。最後の落ち。これをどう表現するか。話のおもしろさとともに、抑揚、間、余韻を楽しむ。まさに「落語も芸術」なのだと私は思う。　（県連事務局長／那須　稔）

機関紙編集部まで
info@aomin.jp
投稿募集!!

職員の皆さんのオススメする本・映画音楽・スポーツ・趣味なんでも紹介していきたいと思います。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌
いつでも元気 MIN-IREN
2018 6月号 380円　好評発売中
巻頭エッセイ／変わらないもの 南雲明彦さん
特集 イエメンに潜入取材
ガマフヤー　遺骨を掘る男
けんこう教室　カンピロバクター食中毒
まちのチカラ　特別編 横浜ベイエリア
食と健康　おいしい減塩のコツ

5月 第25回理事会報告

2018年5月　第53期

- 全日本民医連第3回理事会報告
- >> 決済承認事項
  - 全日本民医連第43回総会方針「学習月間」方針（案）
  - 2016年2017年度決算，2018年2019年度予算提案
- >> 会務報告／各委員会・医師委員会報告
  - 2018年原水爆禁止国民平和大行進への参加のお願い
  - 全日本民医連2017年度経営実態調査のお願い
  - 「介護ウェーブ2018」方針
  - 医師委員会報告／既卒医師対策報告
- >> 協議事項

主な 今後のSCHEDULE

- 5/19 県連医師総会
- 5/27 県連第54回総会
- 6/3-9 原水爆禁止国民平和大行進（青森県内）
- 6/9 県連経営セミナー
- 6/30 新歓医系奨学生のつどい